



会長 古賀 健一郎
副会長 古田 和彦
書記 古賀 健一郎
会計 大高 治
直前会長 古田 和彦

国際会長 (IP) Kim Sang-chaе (Korea)

“Y's Men with the World” 「世界とともにワイズメン」

アジア太平洋地域会長 (AP) 大野 勉 (神戸ポート)

“Make a difference beyond the 100th”

「100年を越えて変革しよう」

東日本区理事 (RD) 大久保 知宏 (宇都宮)

「私たちは次の世代のために何ができるか？」

“Think for the next generation”

湘南・沖縄部部長 (DG) 若木 一美 (横浜とつか)

「咲かそう 人の輪〜明るく・楽しく・元気よく〜」

横浜クラブ会長 (CP) 古賀 健一郎

「今こそ『すべての人を一つにして下さい』(ヨハネ17章)を覚え、平和への行動を！」

“Now, keeping 『All be one with each other』 (John 17), Act for peace!”

監事 松島 美一
ブリテン 伊藤 誠彦
担当主事 青木 英幸

<今月の聖句>

松島 美一

「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる。」

(マタイによる福音書5-9)

今月のひとこと

「先ずは、共感を呼ぶ利Y的奉仕活動を」

伊藤 誠彦



私が住む町、横須賀市湘南鷹取では自治会活動が活発です。

町は1970年代に、東京、横浜に通勤する人達のベッドタウンとして開発されました。当時の住民の多くの世帯主は30~40歳代で、核家族を構成していました。しかし、20年ほど前から、多くの世帯では定年退職の時期を迎え、子供達も独立しました。

多くの定年退職者が新しい生き甲斐として選んだのが、利他的地域社会奉仕活動としての自治会活動だったのです。

昨年10月、湘南鷹取地区7自治会で組織される「湘南鷹取防犯対策委員会」は、「安心安全なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。全国表彰8団体の中の一

つの栄に輝きました。

更に、今年8月には、私が住む湘南鷹取2丁目自治会(湘南鷹取地区7自治会の一つ)が「道路の美化」で国交大臣賞を受賞しました。こちらは、全国96団体、神奈川県5団体の一つでした。

「湘南鷹取防犯対策委員会」は2003年、侵入盗が多発したことで住民が危機意識を高め、地域の自主防犯力向上を目的に発足したものです。「安心安全のまちづくり」では、毎日の防犯パトロール実施に加えて、地区内の愛犬家で構成する「ワンワンパトロール隊」による「ながら防犯パトロール」を実施。また、自治会員、小学校PTAによる「こども見守り隊」を結成し、毎日登下校時間帯における児童の見守り及び授業中における構内の巡回を実施しています。

「道路の美化」活動は、「自分の街を自分の手できれいにできないか」と2丁目自治会の下部組織である老人会(睦会)が立ち上がったものです。以前は、空き缶やレジ袋に詰めたゴミを捨てる人があり、ゴミが散乱する場所の多くは市の所有地で、立ち入ることができなかつたため、横須賀市の「ま

松島ワイズ 今月の聖句について

平和を実現することは難しい。言葉だけではできない。行動は一人では力がない。「他人と心を合わせる」ことが必要だが、それは著しく困難である。「平和」という言葉の解釈だけでも他人と一致しがたい。他人が平和実現と称する行動が私には暴力としか思えないこともある。デモのときに歌うながら「平和のために戦わん」との歌詞さえあった。

<2021年9月例会実績>

在籍者	出席者	出席率	B F	
12名	メン 9名 メネット 0名 コメント 0名 ビジター 0名 ゲスト 0名 合計 0名	83 % (メーキャップ 1名を含む) 前月修正 出席率 %	今月分 切手 0g 現金 0円 年度累計 切手 0g 現金 0円	

<10月の行事予定>

EMC/E YES

日	曜	時間	行事内容	場所
14	木	15:00	横浜クラブ第一例会	Zoom
23	土	14:00	湘南・沖縄部部大会	横浜とつか
28	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom

ちかど里親制度」を利用して開始されました。同制度は、市民グループが道路や公園などの親代わりになって清掃、除草などを行い、市がそれに物品（ほうき、かま、ごみ袋など清掃・除草活動に必要なもの）の貸与・支給などの支援をするものです。今では、路面の清掃、路肩の除草に加えて、花壇の整備等を行っています。

何しろ、時間的に余裕がある元気な高齢者が多い。ワイズは会員の高齢化、会員の減少に悩んでいます。わが町の高齢化はもっとすごい。「睦会」の会員数は65名、会員の平均年齢は81歳です。来年には80歳を迎える筆者

も若手の部類に属します。書記の役割を担わされ、いいように扱われています。また、「こども見守り隊」で毎朝、通学路で子供を見守っている会員の最高齢は93歳です。

ワイズとしては、利己的でも単なる利他的でもない「利己的」とも言うべき活動を明確にすべきと考えます。「利己的」とはYMCAに利するという意味です。YMCAの活動を支援すると言っても、それは金銭的支援ではありません。8月号のブリテン記事「総会資料が指摘していること」で述べた通り、会費を原資とした金銭的な支援には限界があり、あまりにも少額で支援と言えるようなものにはなりません。

また、肉体的労働奉仕でもありません。それは、若者には遥かに及ばない老人には向いていません。

では、何によって利己的支援と呼べる活動をするか。それは各人がこれまでの社会生活の中で蓄積してきたはずの経験、知識、知恵を活用した知的サポートであるべきと考えます。

横浜 YMCA の目的や活動方針に賛同している維持会員や賛助会員との協働も当然視野に入れても良いでしょう。

とにかく「あの人たちと一緒に横浜 YMCA のために何か役に立つことをしてみたい」と人に共感してもらえる利己的奉仕活動を展開すべきです。わが町の自治会活動も、額に汗して活動する人達の姿に賛同者もさらに増えつつあります。

冒頭に記した表彰は、内閣府や国土交通省のWEBサイトで紹介されていますし、「道路の美化」運動の結果は8月27日のタウンニュース横須賀版一面で大きく取り上げられました。「先ずやること！広報は後でついてくる！」というのが筆者の実感です。

「9月第一例会報告」

伊藤 誠彦

日時：9月9日（木）18:30～20:15

開催方法：Zoom 例会

出席者：青木、秋元、伊藤、大高、古賀、齋藤、佐竹、古田、松島

古賀会長が入院加療中のため古田副会長が会長を代行して定刻に開始。

古賀ワイズも病室から Zoom で参加。冒頭で発言を求められ「(所要9時間という)大変な手術の後、5日間ほどベッドに貼り付け状態になり、死ぬかと思った。多くの病院の人から大切にしてもらい、皆さんからも励ましをいただき、有り難く勇気づけられた」と、話された。

リモートとは言え、例会に参加できるところまで回復されたこと、先ずはおめでとうございます。

例会は古田ワイズの司会で進行し、ワイズソングは割愛してワイズの信条を唱和、今月の聖句とお祈りに続いて、今例会の主題である「横浜クラブの広報のあり方」に関する協議に入った。

協議では予め各自が提出しておいた資料に基づき、大高、古田、伊藤、秋元ワイズの順に各自の考え方、及び、入会動機について説明。続いて、資料の提出はなかった齋藤、松島ワイズも入会動機を中心に説明。その後、佐竹総主事、青木担当主事よりコメントを頂いた。

リーフレットやWEBサイト、ブリテン等のメディアを通じた広報が有効であると主張する者、ワイズの活動の特殊性からメディアではなくYMCAにかかわる人達が有意義であると認めるような活動を展開することこそが重要であると主張する者、それぞれが自己の考えを述べた。残念ながら、そして、いつものことながら、お互いの知見を披露しただけ、議論を深めるところまではいかなかった。

佐竹総主事からは、ワイズ新入会員の候補として現職のYMCA職員も有力候補ではないかとの意見に対して、現職のYMCA職員は時間的にも難しいという指摘があった。また、青木担当主事からは8月の例会時にお願ひした「このような支援をワイズから提供できないか」というYMCAからの提案に向けて、佐竹総主事、大高館長とも協議の上、準備を進めている旨の報告があった。大いに期待するところである。

現会員のワイズへの入会動機に関しては、個人差があるのは当然として、それでも典型的なパターンとしては、①入会者は退職または転職を機に、これまでのレールの上を走るの



中学校(正面奥)の通学路沿いに整備した花壇

ではなく、利他的に社会貢献するというような、何か新しい生き甲斐を求めていた、②そのような時にワイズメンと出会ったことが入会の直接のきっかけになった、というものである。

広報に関する協議の後はビジネスの話。

青木担当主事の卓話「横浜 YMCA 専門学校現状」で盛り上がった 8 月例会の結果報告、9 月 1 日に開催された日本語スピーチコンテストの結果報告、秋元ワイズも初めて参加されたという Y-Y's 協議会の報告があった。

この他、10 月例会において留学生との交流の場が作れないかという意見が出て、青木担当主事が努力することでひきとった。

また、秋元ワイズが横浜つづきクラブ例会に卓話者として招かれている旨の報告があった。(横浜つづきクラブの 9 月号ブリテンには「一日本語教育者から見た『聖書』の日本語」と題して、かけはし都築において、10 月 22 日に話をされることが紹介されている)

例会はほぼ定刻に終了した。

「近況:横浜海岸教会 150 年史編さん作業から」

古田 和彦



私の属する横浜海岸教会は来年 3 月 10 日に教会創立 150 年を迎える。プロテスタントのキリスト教会としては日本本土で最初の教会である。150 年を迎えるにあたり、『横浜海岸教会 150 年史』を編さんすることを 10 年ほど前から企画してきた。来年の夏発行を目指し、最後の追込みに奮励努力中である。私も、編さん委員の一人として責任を負っている。

プロテスタント教会史的にはわが教会の創立時のことは多く語られており、研究者も多い。私はこの編さん作業をとおして 150 年に及ぶ歩みの中で、輝かしい出来事も多くあったが、同時に、困難もまた多かったことを思い知らされている。そのようなものを乗り越えて今日があることに改めて神様に感謝する次第である。

そこで、今回は、あまり喜ばしくない、どちらかと言うと避けたい話題ともいえる、第二次世界大戦後の教会の動きについて紹介する。

戦時下、国策によってプロテスタント・キリスト教会は日本基督教団に統合されたが、戦後、そのことを巡りプロテスタント教会の再編成ともいえる事態が起きた。まずは、現在編さん作業中の一文を記す。「第二次世界大戦の終結と共に、国家主導で成立した日本基督教団(以下、教団)にも大きな動きが起こった。具体的には教団に残留した



創立 150 年を迎える横浜海岸教会

教会と、離脱して新たな組織を形成した教会の流れである。

教団に残留した教会は、きっかけはどうか、教会の合同は神のみ旨であると捉え、戦後の動乱を見据え一丸となって伝道に突き進むことを選択した。これに対し、戦時中の国家に迎合した教団の姿勢に無批判のまま日本基督教団という組織を維持していくことに疑問を持ち、また教団の抱える様々な問題を熟考し、教団離脱を選択した教会があった。横浜海岸教会は後者を選択した。

私としてはその是非をここで問うつもりはない。わが教会は 1947 年以来教団にとどまるべきか離れるべきか協議検討、1949 年に教団を離脱、1959 年に至って「日本キリスト教会」に加入した。その間に、新しい教派を立ち上げようとしたり、すでに教団と袂を分かち新しい歩みをしている教派に接触したりした。そして、それらの混乱の中で、一部教会員が教会から離れていくことが起きたり、排除されることも起きた。苦悩と痛みを伴う 10 年であった。

戦後、多くの教会でもわが教会と同様、自分たちの信仰の在りようを問い直し、幾多の困難を乗り越えてきたことであろう。戦後 75 年以上が経過し、そのころのことはすでに関心が薄れているこの頃であるが、それぞれの教会が、その痛み・苦しみを忘れることなく、キリストによって示された愛と奉仕の業を遣わされた時と場所で為し続けていく群れであるように願うものである。

「近況:平和の貴重さと戦争の残酷さ」

松島 美一



「体験を平和につなぐ」と題した粗稿を横浜 YMCA 会誌「横浜青年」に連載中です。平和につなぐほどの過酷な戦争体験が自分にあるとは思っていませんでした。実戦体験がある訳でもなく、空襲、疎開、飢えも当時の子どもの平均を過ぎる程度ではない。ごく人並みのものです。それでも書くと皆さん読んでくれ、感想を語ってくれました。

所属教会でも 8 月の平和月間行事の一環として戦時中の空襲の話をしました。つい先日まで周囲に沢山いた戦争体験者が減り、それを語る者が少数者になってきたことを思い知らされました。

人に語れるほどの体験と思っていなかったことも、貴重なこととして聞いてくれる人々がいます。平和の貴重さと戦争の残酷さを、語るうちに、聞く人がいるうちに、躊躇なく伝えていこうと思いはじめました。

第二例会報告

古田 和彦

日時: 9 月 23 日(木)17:00~17:55

場所: Zoom による開催

出席者: 青木、伊藤、大高、古賀、古田

*古賀会長が復帰し、開会祈祷から会の進行をされました。感謝です。

協議・確認・検討事項

1. 行事予定

・資料により予定が示された。11/27 (土) 部第2回評議会を追加する。

2. 協議・報告事項

1) 10月例会 10月14日(木) 15:00~ Zoom

9月の日本語スピーチコンテストに参加した留学生3名(イジンソブ<韓国>、チン ハイキ<台湾>、チャウハン プラディープ<インド>)との懇談を行う。そのため、例会時間を上記に変更。また、本日、集められた質問事項(大高、伊藤、古田提出)を予め留学生に渡し、話のきっかけとする。なお、スピーチコンテストに参加した他クラブの方にも案内する。

2) 11月例会 11月11日(木) 18:30~

本日、横浜YMCAから示された「ワイズへの依頼事項」について、YMCAから内容の説明をしてもらう。取りまとめた、青木担当主事をお願いする。そのうえで、これ以降、YMCAの各担当者などに各論をお願いすることになると予想する。

3) 12月例会 12月18日(土)の「横浜YMCAクリスマス礼拝」を例会とする。

改めて、時間、役割(きよしこの夜を手話で)などお知らせする。

4) 故金子功ワイズからクラブ創立90周年へのお祝い金

(10万円)を、金子メネットを通していただいた。感謝します。クラブとしては、昨年10月以降のブリテンを改めて金子メネットに送付し、ブリテンに示されている金子ワイズに対する思いを受け止めてもらうこととする。また、いただいた金員の使途については今後協議する。

5) DBCの大阪長野クラブが来年創立45年を迎える。とりあえず、会長からお祝いのメッセージを送付する。

6) ブリテン10月号編集計画は原案通り承認した。

7) 継続審議事項

① 9月例会で協議した「広報」について、課題は多いが、当面、ブリテンに加えて、ホームページの更新作業、リーフレットの作成は必要となる。ホームページの現契約内容を古賀ワイズが確認し、日本語学科の留学生の協力が可能か、青木担当主事と協力して検討していく。

② 秋元美晴ワイズ、青木英幸ワイズの入会式日程。

③ 熊本スピリットクラブとのDBC締結の日程。



担当主事 青木 英幸

「障がいのある子どもたちのプログラム参加を支援する」ことを目的とした横浜YMCAインターナショナル・チャリティーランは、今年度は11月6日(土)~20日(土)の15日間でオンラインにて開催されます。今までの同一距離のタイムを競う形式ではなく、期間累計の歩数合計を競います。

バーチャルの会場をサ



イト上に設け、歩数合計を入力するとランキングが見えるようになる予定です。今回よりチームエントリー(1チーム5名、エントリー費5万円)に加え、個人エントリー(エントリー費1万円)が新たに加わりました。日常生活での歩数がカウントされますので多くの方にご参加いただきご協力をお願い出来ればと思っております。横浜YMCA 学院専門学校では、作業療法科、国際情報ビジネス科、日本語学科で協力し2チームがエントリー出来るように取り組んでいます。

昨年はコロナの影響で実施出来ませんでしたでしたが今年は「横浜中央YMCA ウェルカムフェスタ・ウィーク 2021」として、11月23日(火・祝)~30日(火)の期間にミニバザーと日程を分けてのイベントを開催する予定で準備を進めています。抽選会を予定しており、賞品となる献品やご支援いただける団体・企業をご紹介いただければ幸いです。国際・地域協力募金活動の一環として実施いたします「ウェルカムフェスタ」にご協力の程、よろしくお願ひいたします。

10月例会プログラム

日時: 10月14日(木) 15:00~17:00

場所: Zoom 開催

司会: 大高ワイズ

- 1.開会点鐘及び挨拶 古賀会長
- 2.ワイズソング・ワイズの信条 全員
- 3.今月の聖句 松島ワイズ
- 4.ゲスト・ビジター紹介 古田副会長
- 5.留学生との懇談
イジンソブ(韓国)、チンハイキ(台湾)、
チャウハンプラディープ(インド)
- 6.ビジネス・報告 古賀会長
- 7.Happy Birthday 遠藤喜七
- 8.閉会点鐘 古賀会長

例会報告: 伊藤ワイズ

11月の行事

日	曜	時間	行事内容	場所
6-20			チャリティーラン	オンライン
11	木	18:30	横浜クラブ第一例会	Zoom
23-30			ウェルカムフェスタ	中央YMCA
25	木	17:00	横浜クラブ第二例会	Zoom
27	土	14:00	第二回部評議会	

当ブリテン及び横浜ワイズメンズクラブに関するお問い合わせは、YMCA 青木英幸にご連絡下さい。

メール aoki_hideyuki@yokohamaymca.org

電話 045-661-0080